

SAN-Ai

社会医療法人 三愛会 広報誌「さんあい」

Vol.32



[社会医療法人 三愛会]

大分三愛メディカルセンター 三愛総合健診センター

所在地	〒870-1151 大分県大分市大字市1213番地
TEL	097-541-1311
FAX	097-541-5218
病床数	190床
診療科	脳卒中センター、消化器病・内視鏡センター、 運動器センター、救急外傷センター(ER)、人工透析センター、 画像診断センター、リハビリテーションセンター、 救急科・外科・消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・ 乳腺外科・大腸肛門外科・脳神経外科・整形外科・ 泌尿器科(人工透析)・形成外科・内科・総合診療科・ 消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・糖尿病内分泌内科・ リウマチ科・神経内科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
専門外来受付	8:15～11:00/13:30～16:00 ※土曜日は、新患の方のみ 8:15～10:00となります。 ※診療開始時間は診療科によって異なります。
休診日	日曜日・祝日・土曜日午後 ※但し、救急・時間外診療は24時間体制です。
認定施設	二次救急指定病院、大分DMAT指定病院、DPC対象病院、 日本医療機能評価機構認定病院

介護保険相談センター さんあい (大分三愛メディカルセンター内)

TEL	097-542-7409
サービス	居宅介護支援、介護予防居宅介護支援

三愛訪問看護ステーション (大分三愛メディカルセンター内)

TEL	097-541-7007
サービス	訪問看護、介護予防訪問看護

のつはる診療所

所在地	〒870-1203 大分市大字野津原906番地の1
TEL	097-588-1311
診療科目	外科・内科・整形外科・循環器内科・リハビリテーション科
病床数	19床
サービス	通所リハビリテーション(デイケア)、介護保険相談センター
HPアドレス	notsuharu-san-ai.com/

三愛呼吸器クリニック

所在地	〒870-1143 大分市田尻419-1
TEL	097-541-2588
診療科目	呼吸器内科・内科
サービス	呼吸リハビリテーション
HPアドレス	kokyu-oita.com

たばるクリニック

所在地	〒870-1154 大分市大字田原字深田936番地1の1
TEL	097-541-2345
病床数	19床
診療科目	外科・内科・消化器外科・リハビリテーション科
サービス	訪問看護ステーション

介護老人保健施設 たばる (たばるクリニック併設)

TEL	097-542-4139
サービス	入所サービス、短期入所療養介護(ショートステイ)、 通所リハビリテーション(デイケア)

グループホームたばる (たばるクリニック併設)

TEL	097-541-5298
サービス	入所サービス

介護老人保健施設 わさだケアセンター

所在地	〒870-1151 大分市大字市字大坪11番地の2
TEL	097-541-6655
サービス	入所サービス、短期入所療養介護(ショートステイ)、 通所リハビリテーション(デイケア)、訪問リハビリテーション
HPアドレス	wasada-care-center.com

有料老人ホーム さんさん

所在地	〒870-1151 大分市大字市566番地の3
TEL	097-529-5580
サービス	住宅型有料老人ホーム (三愛学童「アイ・ステップ」併設)

さんあいヘルパーステーション (有料老人ホームさんさん内)

TEL	097-529-5582
サービス	訪問介護、介護予防訪問介護

[社会福祉法人 三愛会]

特別養護老人ホーム そうだ藤の森

所在地	〒870-1123 大分市大字寒田202番地
TEL	097-567-8822

天領ガーデン・ふれあい館

所在地	〒870-1143 大分市大字田尻高尾783-1
TEL	097-578-7122

特別養護老人ホーム 天領ガーデン (天領ガーデン・ふれあい館内)

TEL	097-574-7500
-----	--------------



社会医療法人 三愛会 広報誌「SAN-Ai」Vol.32 (2024年7月1日発行)

発行元/〒870-1151 大分市大字市1213番地 TEL.097-541-1311 社会医療法人 三愛会 大分三愛メディカルセンター
社会医療法人 三愛会/www.san-ai-group.org/ 三愛総合健診センター/www.kenkou-oita.com

大分三愛メディカルセンター 病院長・副院長交代のお知らせ

この度、大分三愛メディカルセンターの院長として病院運営にご尽力いただいた森義顕先生が院長職を退任され、共に病院運営を担ってきた副院長の中山尚登先生が院長に就任することとなりました。

森先生は2009年に院長として就任されました。2006年に新病院となり、そして就任された年には社会医療法人としてスタートを切ったばかりで、今後の

法人、および病院の舵取りが非常に重要な時期であり、ご苦労も多かったことと思います。当時常勤医は15名程度でしたが、森先生の指導のもと、この15年間で37名まで増加し、職員数も約1.5倍に増えました。病院全体が大きく成長し、地域医療の発展にその役割を果たすことができるようになったと感じています。

森先生は常に職員のことを第一に考え、意見を尊重し、働きやす

い環境を整えてこられました。その絶対的な安心感とリーダーシップは、当院の組織としての強化と質の向上に大きく寄与しました。そのおかげもあり、当院は数々の新しい取り組みや設備の充実を図り、多くの患者さまに質の高い医療を提供することができております。

数年前、ご本人からそろそろ後任を考えるようにとのお話がありました。しかしながらコロナ禍の難局を抜け出すためには森先生のリーダーシップが必要と判断し、ひと段落するまではとの思いで、今年まで役割を担っていただきました。多くの難題があったこの15

年の間、激務であった院長職を見事に全うしていただいたことに深く感謝申し上げます。今後は中山先生を中心とした新しい病院執行部となりますが、これからは「森イズム」を継承・発展させて、より地域に寄り添う病院を目指していただきたいと思います。

またこの度、藤井先生が副院長の職を退任されることとなりました。藤井先生は2009年に森先生と共に当院に入職され、その後の病院運営において多大なる貢献をされてきました。

2015年には副院長に就任。専門は呼吸器内科ですが、その豊富な知識と経験を活かし、内科全般の統括的役割を果たしてこられました。患者さまへのきめ

社会医療法人三愛会 理事長
大分三愛メディカルセンター 主席麻酔科部長

三島 康典

みしま やすのり



細やかな診療と、医療スタッフへの的確な指導により、当院の内科診療の質を一層高めてくださいました。特に2020年以降のコロナ禍では、感染管理の中心的な役割を担われ、当院の感染対策のスキルを向上させることに大きく貢献されました。感染管理の徹底を図りながら、患者さまとスタッフの安全を守るために尽力されたその姿勢は、多くの方々の印象に残っていると思います。

また、藤井先生はその穏やかな性格と親しみやすい人柄により、

退任のごあいさつ

ました。職員が幸せでなければ、きちんとした医療は提供できないからです。

病院長を退任するにあたり、患者さまおよびご家族、地域の方々、連携する医療機関・介護施設の皆さま、そして職員・同僚の皆さんに、心からお礼を申し上げます。至らぬ点多々あったかと思いますが、皆さまのご協力があつたからこそ、なんとか15年間の職責を全うすることができ、ほっとしております。

私は、当院の理念の中でも特に「職員が幸せでやりがいのある病院をめざす」ということに感銘を受け、院長としての目標にしてき

頭には浮かぶような病院に少しでも近づけたことを願うばかりです。2020年からのコロナのパンデミックは、職員やその家族にとつて非常に辛く困難な時期だったと思います。世界中のどこにも確かな情報やお手本がなく、先も見えない状況下で、ストレスとプレッシャーを抱えながらも、それぞれの

立場の職員がそれぞれに最大限の努力をしてくれたおかげで、どうにか最も苦しい時期を乗り越えることができました。職員には感謝しかありませんし、誇らしく思います。藤井宏透前副院長は呼吸器内科医としての経験を活かして、感染対策委員長を務めて

振返ってみると、この15年間は、常に院長としての責任を意識しつづける毎日の積み重ねだったと思います。困難、心配、安堵、小さな喜び。日々、本当にいろいろなことがありましたが、院長という職

くださり、大変心強かったです。患者さまや地域の皆さまからは、ねぎらいの言葉やご支援をいただき、「地域の病院」として培ってきた信頼関係を大変ありがたく感じました。

た。お二人、そして素晴らしい職員の皆さんと、病院が成長してゆく時間を共有してきたことを幸せに思います。42年前、旧三愛病院で週一回の非常勤勤務を始めた新米医師の頃には、「三愛」が私にとってこれほどの意味を持つ場所になるとは思いもありませんでした。

振返ってみると、この15年間は、常に院長としての責任を意識しつづける毎日の積み重ねだったと思います。困難、心配、安堵、小さな喜び。日々、本当にいろいろなことがありましたが、院長という職

私は医師の仕事が大好きです。肩書きは変わりますが、今後も大分三愛メディカルセンターで診療を続けてまいりますので、よろしく願いたします。



大分三愛メディカルセンター 名誉院長
外科部長

森 義顕

もり よしあき

ならではの地域・病院内外の方々との関わりや、感じたやりがいは、私にとってかけがえのない宝物になりました。心臓血管外科医であり、病院の管理運営については素人だった私を、半澤一邦会長が院長として迎えてくださったから受け継ぎ、三愛会や当院の発展を主導されている三島康典理事長は、私をご信頼くださり、患者さまや職員、病院のことに集中できるように、常にご配慮くださいまし

経歴

- 1980年：長崎大学医学部卒業、同大学附属病院第一外科入局
- 1981年：運輸省航海訓練所練習船 銀丸丸 船医
- 1982年：大分医科大学付属病院 第二外科
- 1991年：ワシントン大学医学部 胸部心臓外科(文部省在外研究員)
- 1995年：大分大学医学部 心臓血管外科
- 1998年：健康保険南海病院 心臓血管外科部長
- 2009年：大分三愛メディカルセンター 院長・外科部長

新体制2024

現場での経験をマネジメントに活かしていく



血管造影装置での脳外科手術



心臓ドックの説明



新院長・新副院長4人そろって撮影

右から[新病院長]
中山 尚 登/脳卒中センター長・脳神経外科医師
[新副院長]
宮本 宣 秀/循環器内科統括部長・循環器内科医師
玉井 文 洋/救急外傷センター長・救急科医師
三ツ尻 明美/看護部長・看護師



能登半島地震での救急チームの派遣活動



看護師のリクルート説明会にて



脳神経外科外来での診察



心臓カテーテル手術での1コマ



救急に関する講演時



脳神経外科医・看護部とのラウンド



外部での災害訓練



大分三愛メディカルセンター 内科部長
呼吸器内科部長
病院感染対策委員長

藤井 宏透

ふじい ひろゆき

この度副院長職を退任することになりました藤井です。これまで病院スタッフの方々、地域の皆さまにはいろいろとお世話になりました。副院長退任に当たり、一言お礼を述べさせていただきます。

私は2009年7月森先生とともに大分三愛メディカルセンターに着任いたしました。2015年より副院長を拝命し、今まで微力ながら大分三愛メディカルセンターが地域の皆さまの役に立つことができる病院になるように、院長や他のスタッフとともに努力してまいりました。

この間に東館ができ、消化器病内視鏡センター開設、三愛総合健診センターが開設され、現在では医師を含めた医療スタッフも増加し、地域の皆さまにとってさらに頼もしい病院になったのではないかと思います。

2020年1月に日本国内で最初の感染者が確認された新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対しても、当病院は三島理事長、森院長の指示の下、コロナ治療の最前線で医師、看護師はもちろん、検査部、薬剤部、リハビリテーション部、事務部、栄養管理課、放射線技術部等、各部門の職員全員が気持ちを合わせて頑張っていました。大変ではあり

ましたが、このことで病院としての経験値が上昇し、職員の結束力も強まったと考えております。

私は副院長退任後もこの病院で、いち呼吸器内科医として診療、感染制御に努めさせていただきます。

地域の皆さまの健康を支える一助となることができましたら幸いです。今後ともよろしく願い申し上げます。

経歴

- 1989年：大分大学医学部卒業
- 1994年：大分医科大学大学院卒業
大分医療センター 呼吸器内科
- 1995年：敬和会大分岡病院 内科
- 1996年：大分医療センター 呼吸器内科
- 1998年：健康保健南海病院 呼吸器内科
- 2009年：大分三愛メディカルセンター 呼吸器内科
- 2015年：大分三愛メディカルセンター 副院長



新副院長 宮本 宣秀

みやもと のぶひで

大分三愛メディカルセンター 循環器内科統括部長

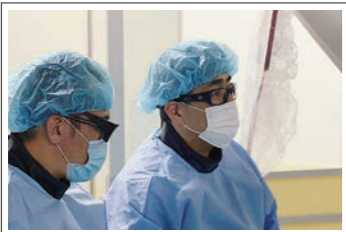
日本循環器学会 認定循環器専門医
日本内科学会 総合内科専門医
日本心血管インターベンション治療学会 指導医
心臓リハビリテーション指導士

メッセージ

当院に着任したのは3年前の2021年6月。未だこの種田地域の医療者としては経験に乏しい部分がございますが、着任以来、地域の医療介護機関との関わりを特に大切に考え、医療連携・介護連携を意識してまいりました。日々患者さんの健康のために尽力される連携機関の先生方、スタッフの皆さまとの関係をより強固なものとし、私たち大分三愛メディカルセンターの存在意義を示してまいります。よろしくお願いたします。

専門領域

心臓血管を診る、循環器内科。大分三愛メディカルセンターでは現在4名の常勤循環器内科医師が在籍し、2021年12月からは心臓カテーテル検査・治療を開始している。2年半ほどの期間で、カテーテル検査約400件・治療約150件(緊急30件含む)の実績を積み、地域からの医療ニーズに迅速かつ的確に応える体制を築いている。また昨今の心不全患者増加への懸念に対しても、スムーズな患者さんの受け入れから退院まで、連携デバイス・カンファを通じて多職種、多施設間での連携に取り組んでいる。



循



新病院長 中山 尚登

なかやま ひさと

大分三愛メディカルセンター 脳卒中センター長

日本脳神経外科学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医
日本脳神経血管内治療学会 専門医

メッセージ

この度、2024年7月より大分三愛メディカルセンターの病院長を拝命いたしました。森義顕前院長は2009年より約15年もの長きの間、地域医療を守るために尽力いたしました。その後任を務めるという大役に身の引き締まる思いですが、これまで築いてきた地域の皆さまとの関係をさらに強固なものとし、なにより「地域の病院」としての目線を忘れることなく、これからも皆さまに必要とされる病院運営を持続してまいります。

専門領域

日本人の死亡原因の第4位に位置する「脳卒中」。いわゆる「寝たきり」の原因でも第2位となっている。スピードが求められる急性期脳梗塞の治療の進歩は目覚ましく、薬剤による血栓溶解療法やカテーテルを用いた脳血栓回収術など、大分三愛メディカルセンターでも積極的に患者を受け入れている。脳神経外科の常勤医師は4名在籍しており、脳卒中センターとして専門医療を追求しているほか、ITB、DBS、SCSなど機能神経外科の領域も守備範囲に入れている。



脳



新副院長
三ヶ尻 明美
みかじり あけみ

大分三愛メディカルセンター 看護部長

看護師
介護支援専門員

メッセージ

「三愛病院」時代より看護師として三愛会へ入社し、早いもので40年以上となりました。その間、地域と共に数多くのスタッフ・患者さまとの出会いがあり、現在も変わらず「三愛の看護師」として勤務できていることに感謝申し上げます。多くの業界がそうであるように、現在、医療業界でも看護師を中心に人材不足が深刻な問題となっております。しかし看護は医療の要です。地域の基幹病院として、看護の質を高いものに保ちながら、地域に貢献できる医療看護体制を構築してまいります。

専門領域

看護職員の人材確保と教育体制整備の問題は、大分県のみならず全国的な課題。大分三愛メディカルセンターでは、特に女性の多い職種として「働く女性の働き方改革」などを中心に、勤務体制などの見直しや特別休暇制度の整備と実行、学童施設の開設など、様々な観点からフォローを行っている。院内には4名の認定看護師、1名の認定看護管理者も在籍。急性期の病院として学びの多い臨床現場を通して、一人ひとりの看護力を高めている。



看

新副院長
玉井 文洋
たまい ふみひろ

大分三愛メディカルセンター 救急科部長

日本救急医学会 救急専門医
一般社団法人 大分救急医学会 代表理事
大分大学医学部臨床教授
大分県立看護科学大学大学院 非常勤講師
社会医学系専門医協会 指導医
民間メディカルディレクター医師
臨床研修指導医
麻酔科標榜医

メッセージ

2005年4月に三愛病院へ救急医として着任し早19年。当時は「救急科」という標榜もなく、「救急医」が県内医療界に全く認知されておらず、その存在意義の周知に苦心しました。当時の半澤理事長はじめ病院の後押しにより理解を得、2006年の病院新築移転改称以来「地域のための救急医療機関」として着実な進化を実感しています。

この間、大分の地域・救急患者・病院のために種々の取り組みを行ってきました。その評価の一つとして2009年に「救急医療」「災害医療」の2部門で社会医療法人の認可をいただいています。

これまでの経験、地域連携、各機関との連携を活かし、副院長として院長を支え、職員と共に更なる病院発展に努め、県民・市民・地域住民の安心安全に寄与する医療機関であり続けるよう努めてまいります。

専門領域

2次救急病院として、特に救急医療に拘りを持つ大分三愛メディカルセンター。2005年の救急医配置前は年間700件程度であった救急車搬入件数は、コロナ禍を経て2022年には2,000件超えを達成。2023年も2,414件と、その数字は右肩上がり伸びている。しかし期待とともに受け入れ要請が増える中、受け入れを断ってしまう「断り件数」も増加しているのは否めない。今後の救急医療体制は、地域全体で考えていく必要がある。



救

たばるクリニック 病床運営開始



「たばるクリニック」と、それに併設する「介護老人保健施設たばる」。「グループホームたばる」は、2017年に三愛会に加入しました。2019年の秋からは院長の白坂千秋が着任。訪問診療についてもカバーし、田原地域の医療介護を支えてまいりました。コロナ禍を経て、激動する医療ニーズに対応すべく、2024年6月より19床の入院設備の体制を整えています。訪問診療や地域の医療介護機関との連携はもちろん、同法人内の大分三愛メディカルセンターとの連携を強化することで、法人全体で田原地域の



明るい室内

皆さまの健康を支えてまいります。5月25日には、地域の皆さまをお招きして内覧会を開催。この機会に工事を行い、フロアを一新しました。近隣住民の皆さまに真新しく生まれ変わった入院フロア部分やリハビリテーションルームなどをご覧いただき、日当たりのよい病室、広いバスルームなど、実際に目で見ることご自身の健康への意識を高めていただきました。



ナースステーション前 デイルーム



リハビリテーションルーム



開放感あふれる通路



地域の方々をお招きしての内覧会

わさだケアセンター 開設30周年を迎えて

「介護老人保健施設わさだケアセンター」は、1994年5月12日に開設。看護・医療的管理のもと、介護やリハビリテーション、必要な医療と日常生活上のお世話など、さまざまなサービスを提供してまいりました。近年では訪問リハビリテーションのサービスなども開始し、短期入所療養介護や

通所リハビリテーションといったことも、利用者の方がご自宅での生活を一日でも長く継続できるように、在宅ケアを支援してきました。開設からちょうど30年を迎えた2024年5月12日、皆さまへの感謝の気持ちを込めて、開設30周年記念式典を執り行いました。近隣住民の皆さま、これまでケア

センターの運営に多大なるご協力をいただいたきたボランティアの方々などをご招待。式典を開催。理事長の三島康典と、現施設長の小野敬司が謝辞を述べ、今後とも長きにわたり植田地域の健康を見守り続けていきたいと、職員一同想いを新たにしました。



右/理事長/三島康典
左/施設長/小野敬司

三愛の学童 笑顔あふれる場所に

地域の数多くの方々のご支援のもと、春に開設した三愛会の学童施設「三愛学童「アイ・ステップ」」。春休みの対応から始まり、通常登校日の送迎や食事、見守りなど、経験豊富とはいえなくても、情熱と労りの気持ちに溢れたスタッフたちが日々奮闘しています。いよいよ需要もさらに高まる

「夏休み」が始まります。子どもたちが大人になっても思い起こせるような、夏の思い出の企画。現場では、いつも、子どもたちの笑い声が響きわたっています。

